

(兼題)

「つばめ」

伊藤 玲子 選

佳句

蜘蛛の巣を払いツバクロ迎え入れ
国鉄のつばめも古い物語り
スピードに過信しましたツバメの死
難癖をつばめ返して切り驟す
田植時季つばめが消えて絵にならぬ

人

弘子
煩惱児
熊四郎
たえこ
あきら

ハンサムなつばめの機嫌もうとれぬ

地

堀 弘子

つばめから学ぶ育児のABC

天

松本 文子

つばめから思わぬ事を聞かされる

軸吟

清水美智子

反抗期つばめ返しの二つ三つ

伊藤 玲子

(兼題)

「虫」

富田 蘭水 選

佳句

虫けらの五分の魂認め合う
弱虫を夜叉にしたのは恋だった
だんご虫もあるくなつて自己主張
毛虫の尻で終るものかと生きている
腹の虫ぐつと押えて和を保つ

人

煩惱児
玲子
敬子
文子
美千代

胸の虫防犯カメラ外したい

地

珍部美江子

泣き虫の孫も今では本の虫

天

銭山 昌枝

人間も虫も一つという命

軸吟

竹治ちかし

籠入りの虫と二人で生きている

富田 蘭水

(兼題)

「燃える」

松本 文子 選

佳句

日の丸を背負うと燃えてくる心
我が家から大きな袋燃えるゴミ
さよならの余韻夕日が燃え尽きる
まだ燃える名刺をくばる風の道
燃えるものあつて楽しく生きられる

人

ちかし
洋子
美智子
博子
美千代

若き日の燃えた心は海のように

地

今岡 健柳

燃えた炭茶人の心詠んでいる

天

宮廻 鏡子

消したのに残り火ゆらりまたゆらり

軸吟

吉川らんまん

燃え尽きたか泣いているのかバラよ

松本 文子

(席題)

「子」

竹治ちかし 選

人

ひよっこりと子供に逢いに来たカモメ
肩車この子に地球青くあれ
ありあまる愛が重たい過保護の子

地

伊藤 玲子
岸 桂子
岸 桂子

マイホーム想い出語る子供の日

軸吟

竹治ちかし